

Title	僕の中の多民族主義礼讃
Author(s)	林田, 雅至
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81447
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

僕の中の多民族主義礼讃

林田雅至

文化に純粹性ということはあるだろうか？文化の担い手である人間が創造的行為に取り組もうとすると必ず模倣から始まり、複数文化の融合的な姿を極限領域にまで高めたとき、職人という領分を脱して芸術家は誕生し、越境する文化の統合的作品を生み出す。

人々はその刷新された芸術感覚に魅了され、感動し、次世代の芸術家を育む精神的土壌を整える。世代を越えてダイナミックに継承され、人々を魅了・眩惑する不可思議な力のことをブラジルで ginga(ジンガ)と呼ぶ。本来奴隷の護身術にルーツを持つ capoeira(カポエイラ)の基本的動作をいうが、音楽、サッカーなどにおいても通用する。なお、カポエイラは2008年国内無形文化財に、2014年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。

多民族モザイク国家、寛容な多言語化主義、異文化の共存・対立のつぼの中で「速く、巧く、鋭い」gingaは百戦錬磨され、大衆が香る撥弦楽器の息を呑む演奏に芸術的推敲を重ね、常に同時代的な感覚を失うことはない。

■ 写真解説：

写真(1998.9.15 撮影：林田)は欧州の組織的蹴球文化とブラジルの超絶個人技主体の蹴球文化を欧州リーグで融合完成させた20世紀末最大の職業蹴球人リヴァウドを輩出したレシーフェのファヴェラ(スラム街)のある家族の写真である。よくハングリー精神こそがブラジリアン・ドリーム実現の大いなる動機付けとされるが、尊厳ある人間を上昇志向に向かわせるのは芝生上瞬時に一蹴的中の得点を



を生む攻撃型を創造的に錬磨する gingaこそ不可欠である。そうした高貴な心技体の三位一体があればこそ、人々は超美技に度肝を抜かれ、その芸術的技量に感服し、万雷の拍手喝采を送るのである。